

## Webデータベース製品比較のポイント

	比較項目	説明	ブリザンターの場合
1	操作の快適さ	動作が遅い製品や操作がしにくい製品は利用頻度が下がり、思うようにデータが収集できない可能性があります。	独自のWeb UIエンジンにより動作が高速なため、利用者が日常的に使うアプリケーションとして適しています。
2	コミュニケーションの仕組み	案件管理のような業務では、数字だけでなく状況の記録やコミュニケーションが不可欠です。コミュニケーションがしやすい機能が備わっていることで業務がやりやすくなります。	コメント機能、メール機能、通知機能などが充実しており、数字データを補足するコミュニケーションツールとして利用する事が可能です。
3	様々な形式のデータの統合	文字、数字だけでなく、添付ファイルや画像といったデータをエクセルのように柔軟に貼付けできる仕組みがあることで、情報共有の効率化が図れます。	画像や添付ファイルを含め、一覧形式で表示したり、検索したりすることが可能です。
4	データのリレーション	複数の一覧表を紐づけて管理することで、データの一元管理が可能となります。リレーションの階層に制限がある場合、データの二重管理などが発生する可能性があります。	複数のテーブルを紐付けることが可能です。階層に制限が無い場合、複雑なデータ構造を再現する事が可能です。
5	画面のカスタマイズ	製品の機能として無いような画面を実現できないケースがあります。その場合は利用者の操作が増えたり、必要なデータが見えないといった問題が発生します。	カスタムスクリプト、カスタムスタイル、APIを組み合わせて、様々な画面を実現することができます。
6	データ処理のカスタマイズ	データの登録や更新をきっかけに、他のデータを同時に更新できるような仕組みがあると、人手による情報転記の作業を低減する事が可能です。	拡張SQLを使用することで、他のデータベース（OracleやAccessなど）のデータを同時に更新する事が可能です。
7	データのビジュアル化	入力したデータをグラフ化する機能があると、チーム単位のペーパーレス会議などがいつでもできるようになります。これによりマネジメントのサイクルを大幅に短縮できます。	クロス集計、時系列グラフ、カンバンなどの機能により、データの見える化が簡単に行えます。
8	バージョン管理	登録したデータの過去の経緯も含めて管理ができると、複数人でデータを更新する際でも安心して利用できます。また、営業活動においていつ、どのように案件が変化したのかを知ることで振り返りが可能です。	レコード単位にデータの更新履歴が自動的に保存され、過去の経緯を一覧表示することが可能です。
9	検索性能	登録したデータが容易に探せない場合、利用者の作業効率下がります。検索性能は多くの業務で必要不可欠な機能です。	複数のテーブルを横断検索が可能です。また10万件の大量データを瞬時に検索する事が可能です。
10	リマインダー	今日取り組むべきタスクの一覧などを自動的に抽出してチームにメールすることができれば、タスクの漏れの防止や、確認作業の効率化に繋がります。	指定した周期（毎日、毎週、毎月等）でレコードの情報をメールでお知らせすることができます。
11	テンプレート	システムを1から作らないようにするためには、様々な業務をカバーしたテンプレートが豊富である事が必要です。	顧客管理、営業支援など、約300種類のテンプレートからアプリを作成することが可能です。
12	システムの変更	業務の変更により管理項目が追加されるような場合、業務を停止せずに行えることが重要です。	業務を停止せずWeb画面から項目の追加・変更が可能です。
13	システムの拡張性	将来、他の業務との連携が必要となった場合に、別システムを作ってしまうと、その間のデータの入出力が必要となってしまいます。他の仕組みと簡単に接続できる事がポイントです。	APIによる連携、データベース間の連携、JavaScriptによる他のWebサービスとの連携等をサポートしており、様々なシステムと接続することが可能です。
14	データの堅牢性	入力したデータを確実に保護するためには、実績の高いデータベースに格納されている事が安心材料となります。	マイクロソフト社のSQL Serverを使用するため、非常に高レベルのデータ保護が可能です。
15	ユーザ管理のしやすさ	Active Directoryなど既存のID管理の仕組みと連携できない場合、人事異動や組織変更の手間が大幅にかかるため、連携できることが望ましいです。	Windowsにログインしたユーザをブリザンターのユーザとして、シングルサインオン（ブラウザを開いただけでログイン）が可能です。
16	動作環境の選択	製品によってはクラウドサービス以外の提供が無い場合があります。その場合、社内システムとの連携が難しくなったり、セキュリティ面の留意点が増えたりします。	クラウド版だけでなく、社内環境にインストール可能なオンプレミス版での提供がございます。
17	ライセンス価格	製品によっては利用人数単位に料金が必要なものがあり、利用人数が多い場合、負担が増える可能性がございます。	製品のライセンスは無料、サポートライセンスは利用人数に関わらず一律の金額でご利用いただく事が可能です。そのため全社に利用範囲を広げても料金の負担を増やさずにご利用可能です。
18	パートナー	販売パートナーが多い製品は、将来、様々な提案が受けやすくなります。	ブリザンターはパートナ制度を通して、現在40社以上のパートナーがパートナー独自のソリューションを提供しております。